



アンチ・ドーピングについて

昨年は東京オリンピック、今年は北京オリンピックが開催され、ドーピングに関するニュースを見た人も多いのではないのでしょうか。今回はドーピングについての話題を取り上げました。

ドーピングとは？

ドーピングという単語の起源は、アフリカ南部の原住民カフィール族が祭礼の時などに飲む強い酒「dop」にあるといわれています（諸説あります）。

ドーピングとはスポーツにおいて禁止されている物質や方法によって競技能力を高め、意図的に自分だけが優位に立ち、勝利を得ようとしたり、またそのような行為を隠す行為を指します。

薬によっては、筋肉を増強する効果や、持久力を高める効果、興奮させ闘争心を高め疲労を感じにくくする効果、緊張による「あがり」を抑える効果、尿の量を増やすことで尿検査での禁止物質の検出を隠す効果などがあり、使用が禁止されています。

また、アスリートが病気の治療などのためにドーピングを目的としないで、禁止物質をうっかり使用してしまうケース（うっかりドーピング）もあります。

禁止物質を含む医薬品の例

医薬品名	主な 効能・効果	主な禁止理由
ホクナリン®テープ	気管支炎、喘息	興奮作用と筋肉を増強する効果があるため。
葛根湯	風邪、肩こり、頭痛	エフェドリンという成分に興奮作用があり、疲労感を低減して闘争心を高める効果があり、また疲労の限界を感じにくくし危険なため。
ダイアモックス®錠	緑内障	利尿作用があり、尿の量を増やすことで尿検査での禁止物質の検出を隠す効果があるため。また柔道やボクシングなどでの体重の急速な減量をすることができるため。
セレスタミン®配合錠	蕁麻疹、アレルギー性鼻炎	ベタメタゾンという成分がエネルギー代謝を活性化させ、競技力を向上させたり、あるいは陶酔感を期待して使用されるため。
インデラル®錠	高血圧、狭心症、不整脈、片頭痛の予防	緊張による「あがり」を抑える効果があるため。（アーチェリー、ビリヤード、ダーツなど一部種目でのみ禁止）

なぜドーピングはいけないの？

ドーピングはフェアネスの精神に反します。自分自身の努力や、チームメイトとの信頼、競い合う相手へのリスペクト、スポーツを応援する人々の期待などを裏切る、不誠実で利己的な行為のためアンチ・ドーピングのルールにより禁止されています。

また、薬の副作用によってアスリートの健康が損なわれる可能性があり、薬物乱用の観点からも青少年への悪影響の恐れがあり社会悪となります。

違反をすると、どうなるの？

違反があった場合、アスリートやサポートスタッフは制裁を受けることになります。制裁の例としては以下のものがあります。意図的な違反や違反を繰り返す場合、より厳しい制裁が課される場合もあります。

- アスリートの大会成績が取り消される。
- 大会参加やトレーニング、コーチとして指導に関わるなど、スポーツの活動に関わることができなくなる。
- チームで複数人違反者が出た場合は、チームに対して制裁が科される場合がある。

アスリートは薬を使用することができないの？

スポーツにおいて、すべての薬の使用が禁止されているわけではありません。

禁止されていない薬であれば、用法用量を守り使用することができます。

よって、体調が悪い時、けがをしてしまった時に薬を使用するときは、使用する前に禁止物質ではないかの確認が必要となります。その際は医師や薬剤師、公認スポーツファーマシスト※に相談をしましょう。

※公認スポーツファーマシストは、最新のアンチ・ドーピング規則に関する正確な情報・知識を持った薬剤師です。

【参考】 公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構
日本薬剤師会 薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック2021年版